

Comparison of the Effect of Bromfenac versus Betamethasone Ophthalmic Solutions in Patients with Diabetic Macular Edema

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2023-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飛松, 唯 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00033460

主論文の要約

Comparison of the Effect of Bromfenac versus Betamethasone Ophthalmic Solutions in Patients with Diabetic Macular Edema (糖尿病黄斑浮腫に対するブロムフェナク点眼液とベタメタゾン点眼液の有効性の比較)

東京女子医科大学糖尿病・代謝内科学教室

(指導：馬場園哲也教授・基幹分野長) ⑩
飛松 唯

Current Eye Research 第48巻 第1号 80頁～85頁
(2022年11月4日オンライン公開) に掲載

【目的】

成人の主要な視力障害の原因である糖尿病網膜症の中でも、糖尿病黄斑浮腫(DME)は特に視力に影響を与えるが、現在承認されている治療方法は硝子体注射や光凝固であり、侵襲の大きさや経済的側面から点眼薬による治療が望まれている。そこで我々は、DMEに対するブロムフェナク点眼液(BF)とベタメタゾン点眼液(BM)の有効性を比較するためにこの研究を行った。

【対象および方法】

2017年6月から2019年10月までの間に東京女子医科大学病院糖尿病センターを受診しDMEと診断した患者のうち、中心窩から直径1mm以内の平均網膜厚(CST)が250～500 μmであった患者を対象とした。選択基準を満たした19例19眼を無作為にBF群とBM群に割付けした。点眼開始前、点眼開始後4、8、12週後にCST、視力、眼圧を測定した。またCSTと視力についてHbA1c値8.0%未満の症例を対象としたサブ解析を行なった。

【結果】

両群間における患者背景に有意差はなかった。CSTのベースラインからの変化について、BF群・BM群間、また各時点で比較したが、いずれにおいても有意

差は認めなかった。視力についても両群ともベースラインと比較して投与後の変化はなく、いずれの時点でも群間の有意差は認めなかった。眼圧について、BF 群では全ての時点においてベースラインと比較し有意な変化はなかった。BM 群では投与 8、12 週時点においてベースラインと比較して有意な眼圧上昇が確認された。CST と視力について HbA1c 8.0%未満の血糖コントロール良好例（BF 群 7 例、BM 群 6 例）を対象としたサブ解析を行った。その結果、BF 群においてベースラインと比較して投与 8、12 週後の CST が有意に改善した。BM 群ではいずれの時点においても有意な変化は認めなかった。視力について、両群ともいずれの時点においても有意な変化は認めなかった。

【考 察】

血糖コントロール良好例では、BF 群では BM 群と比較して CST の有意な改善を認めた。BM による眼圧上昇は以前から広く知られている副作用であるが、BF 群では眼圧変化をきたさなかった。また点眼回数が 1 日 2 回と少ないことからアドヒアランスの面からも有利な治療であると考えられた。DME に対する治療は硝子体注射が第一選択であるが、血糖コントロール良好例に限定し、軽症や初期の DME の、様々な理由から硝子体注射を選択しにくい症例で、侵襲の少ない点眼治療ができる BF は良い選択肢となる可能性が考えられた。

【結 論】

BF は 12 週にわたる点眼を継続しても眼圧上昇をきたさず、血糖コントロールが良好な DME の CST を改善させる効果が示唆された。